

文部科学省委託事業「新しい時代の学びの環境整備先導的開発事業」

東京大学教育学部附属中等教育学校

「新しい時代の学びの環境整備」に向けた本校舎大規模改修

2022年3月

国立大学法人東京大学
教育学部附属中等教育学校

はじめに

東京大学教育学部附属中等教育学校では本校舎が間もなく築40年を迎える。この間、卒業研究に結実する中高6カ年の総合的学習のカリキュラム開発と実践に多大な成果をあげ、近年の「探究的学習」に先鞭をつけるとともに、教科学習においても生徒同士のからだまるごとの関わりを通した「協働的学習」で高い評価を得てきた。そうした学びのスタイルが Society5.0を迎え ICT を積極的に取り入れながら、40年後に想定される建て替えの日に来るまで営々と継続的に発展させられるような、学習空間のあり方の研究および実現が望まれていた。

リノベーション構想に向けては、教育学部との連携の中で附属校をGIGAスクール構想に則った先進的な学校として開発していく事業が謳われ、東京大学の総長からも積極的支援の声かけが行われていた。こうした流れを踏まえ、令和3年度概算要求にて校舎の大規模改修を提起し、附属学校教職員と法人との間でその将来像について一定の方向性が共有され、それが本開発事業の事業目標となっている。この概算要求では文部科学省の総合評価 S を受けたが、いまだ実施には至っていない。その後今年度に入り文部科学省より「新しい時代の学びの環境整備先導的開発事業」が公募されることとなった。本校の新たな学校構築への想いや経緯が文科省事業の趣旨と合致することから、東京大学として応募し、幸運にも採択されることとなり、その結果大規模リノベーションについて本格的な構想が進められることとなったものである。

本事業は、既存校舎の改修であり部分的な増築も行わない、しかも工事期間中の移転も伴わない居ながら工事での事業実施、という厳しい枠組みの中で構想されたものである。理想形を思い浮かべつつも現実とのすり合わせが困難であったり、その解決に通常以上のアイデアが必要となるため関係者への共有にも時間がかかったりと、さまざまな面に多くのエネルギーが必要とされた。しかし一方、冒頭に述べたように、教育カリキュラム面では教育学部との共同研究成果がすでに十分に花開いており、目指す教育の姿は明快に示されていたことが、リノベーション構想の共有に大きな力を発揮した。教育方法の創造と教育空間の構想が表裏一体のものであることを、改めて明らかにしたと言えよう。また、東京大学を中心とした研究者の先生方に協議会を構成していただき、最先端の専門的知見が適切な密度とフィット感を伴って惜しみなく本構想に注ぎ込まれたことも、特筆すべき成果につながった。附属学校教職員の実践の積み重ねから生まれた要望と、より広範で先端的な知見に基づく未来像の提示がぎり結ばれ、東京大学と社会をつなぐイノベーションの力として、東京大学附属校らしい形で地に足の着いたリノベーション案に結実したといえる。

このようにしてまとまった本事業が、ひとり本校のことだけにとどまらず、多くの学校の新しい学びの環境の創出について、広く社会を先導するケーススタディとなれば望外の喜びである。

最後に、ご多忙にも関わらず熱心に協議会にご参加いただき、素晴らしいご意見を提供くださった長澤先生、野崎先生、そして東京大学の各学部の先生方に改めて最大限の御礼を申し上げます。ありがとうございました。

はじめに

目 次

1. 事業概要

- 1.1. 事業の概要
- 1.2. 検討体制
- 1.3. 検討スケジュール

2. 事業対象校の概要

- 2.1. 既存施設の概要
- 2.2. 教育方針の概要
- 2.3. 現状の課題
- 2.4 既存校舎の使用状況の把握

3. 計画目標（上位計画、要望）

- 3.1. 事業目標
- 3.2. 施設の改修目標
- 3.3. 施設改修に向けての重点ポイント
- 3.4. リノベーション協議会での意見
- 3.5. 三者協議会での意見
- 3.6 改修の方向性の設定

4. リノベーション各項目の検討

- 4.1. 校舎ダイアグラムの再構築
- 4.2. 普通教室の検討
- 4.3. 特別教室の方針 → フレキシブル化の検討
- 4.4. ラーニングコモンズ
- 4.5. 教職員コモンズ
- 4.6. ものづくりコモンズ
- 4.7. プレゼンテーションコモンズ
- 4.8. クリエイトラウンジ

- 4.9. 探究パティオ
- 4.10. 協働パティオ～地域との連携
- 4.11. 上履きの扱い
- 4.12. 中庭の活用
- 4.13. 各学年への配慮
- 4.14. ひとりになれるスペース
- 4.15. 渡り廊下の検討
- 4.16. 協議会でのキーワードの充足状況
- 4.17. さらなる展開の可能性

5. 東大附属校リノベーション＜まとめ＞

- 5.1. 改修コンセプト
- 5.2. 改修計画平面図
- 5.3. 将来イメージ図
- 5.4. 工事ローリング計画図

☐ 資料編

1. 事業概要

1.1. 事業の概要

本校の特徴となっているカリキュラムに対して、より適した空間とはどうあるべきかを再検証し、同じ校舎躯体を継続活用しながら（増築も行わない）、全く新たな学びの空間を再編・創出する大規模リノベーションの試み。

1.2. 検討体制

1.2.1. リノベーション委員会

前期課程副校長・教科代表各 1 名・図書館司書 1 名・副事務長の総勢 14 名で構成。教職員個々のイメージする改修後の学校像を集約しながら、全体像を構想する。また、リノベーション委員会と教育学部附属学校運営委員会で、構想について意見を出し合い検討。

1.2.2. リノベーション協議会

リノベーションを多様な視点から検討するため、有識者及び学校評議員、法人施設部で構成されたリノベーション協議会を開催する。ここに文科省からの派遣アドバイザーを迎えて、総合的な観点からの論評をいただきながら検討を進める。

□リノベーション協議会体制

東京大学教授：7 名 学外教授：1 名 学校評議員：5 名 学校関係者：16 名
 東京大学施設部：2 名

□専門委員、各専門分野

氏名	所属および役職	専門分野
山内 祐平	東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授 情報学環長・学際情報学府長	学習環境 (ラーニングコモンズ)
千葉 学	東京大学大学院 工学研究科 教授	建築学 (集まりのデザイン)
大宮司 啓文	東京大学大学院 工学研究科 教授	空調 (感染リスク低減)
宮原 徹	東京大学大学院 工学研究科 教授	塗料 (感染リスク低減)
岡田 猛	東京大学大学院 情報学環 教授	教育認知科学 (芸術創造空間)
小国 喜弘	東京大学大学院 教育学研究科 教授	教育学 (教育史)

		※学校経営の専門性を有する
藤江 康彦	東京大学大学院 教育学研究科 教授	教育学（教育方法） ※学校経営の専門性を有する
野崎 淳夫	東北文化学園大学大学院 健康社会システム科 教授	生活環境

□派遣アドバイザー

氏名	所属および役職	専門分野
長澤 悟	東洋大学名誉教授 (株)教育環境研究所所長	新たな時代の学びの環境

□専門的な知見を活かす項目の例

- ・「探究・協働」の活動をふんだんに取り入れ得る教室整備
- ・図書館を核にしたラーニングコモンズを機能の中心に据え学校全体を探究空間
- ・「からだまるごと」で他者・世界とつながる空間 UI 導入
- ・特別教室の可塑的で効果的な再配置
- ・今後40年間の時代の変化への対応
- ・広く市民に開かれたイノベティブコモンズとしてのキャンパス計画
- ・ポストコロナの時代を視野に入れた感染症対策
- ・その他

1.2.3. 三者協議会

生徒・保護者・教職員で構成される既存の三者協議会で基本構想に関する意見を集約する。

1.3. 検討スケジュール（実績）

実施日	実施事項	出席者等
2021 年 3 月 1 日	A C U T 出張講義 「人の集まりのデザイン」	千葉先生 生徒多数
2021 年 7 月 1 日	附属学校における I C T 活用について （空間 U I を用いた授業検討会および懇談）	山内先生 出席者 7 名
2021 年 8 月 31 日	第 1 回リノベーション協議会 「学校空間の衛生環境：主として感染症対策について」	脇原先生 委員 15 名
2021 年 9 月 8 日	本郷学環コモンズ見学	山内先生 出席者 7 名
2021 年 10 月 21 日	三者協議会 「できたらいいなこんな校舎」	教職員 ・保護者多数
2021 年 12 月 6 日	附属学校内 中間報告会	教職員多数
2021 年 12 月 22 日	第 2 回リノベーション委員会 「皆が集まる地域に開かれた学校」の検討	委員 22 名
2022 年 1 月 17 日	第 3 回リノベーション委員会 『総合的な学習が行えるアクティブラーニング空間』の検討	委員 23 名
2022 年 1 月 31 日	第 4 回リノベーション委員会 『2 回・3 回を踏まえた検討案、ローリング計画への展望』	委員 23 名
2022 年 2 月 15 日	第 5 回リノベーション委員会 『最終検討会、文科省への答申案の策定』	委員 28 名
2022 年 2 月 25 日	第 5 回委員会での意見に対する改善案	
2022 年 3 月 11 日	報告書案に対する意見への対応	

：附属校独自で行った研究会
：本事業での検討会

2. 事業対象校の概要

2.1. 既存施設の概要

事業対象は、東京大学教育学部附属中等教育学校（生徒数 720 名）である。

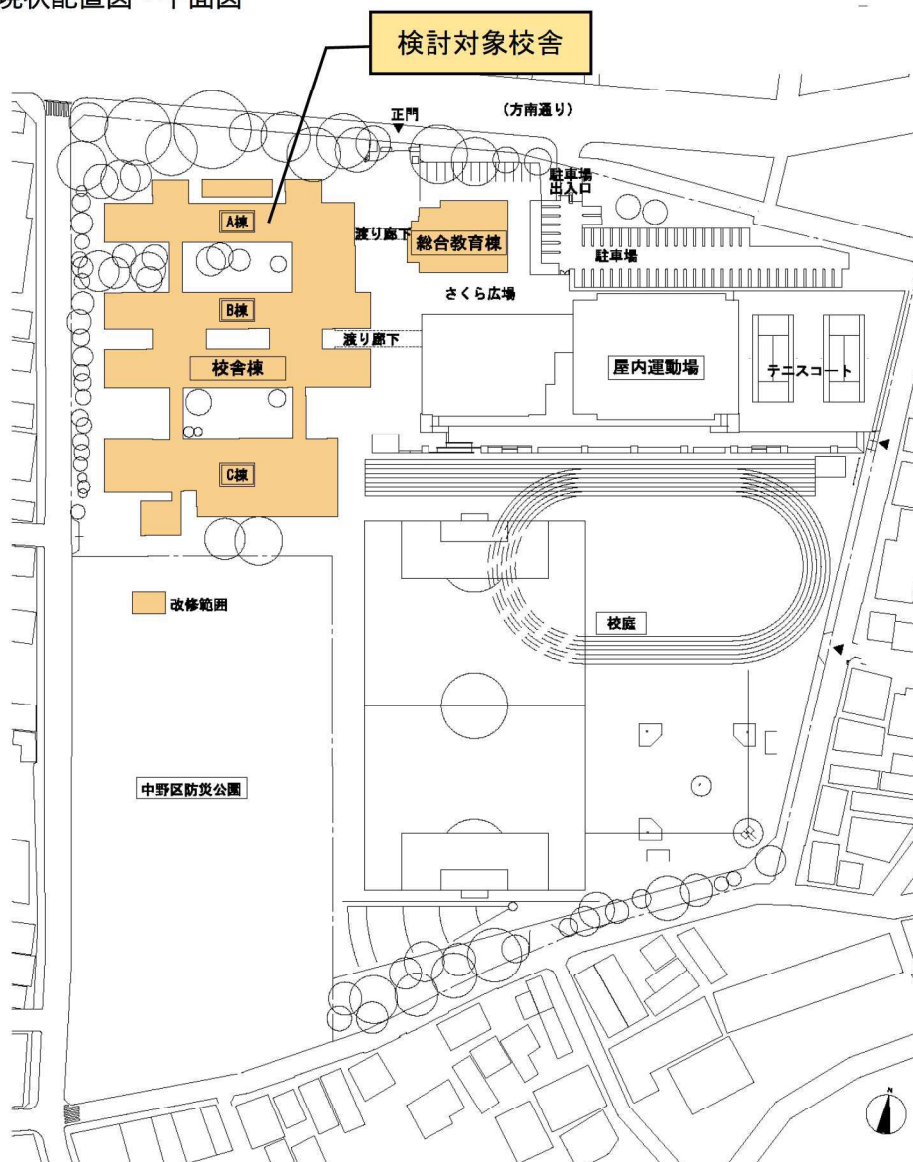
本校舎 （1984 年竣工）
 総合教育棟（2002 年竣工）
 体育館棟 （2013 年竣工）
 自転車置き場などの附属棟
 グラウンド、テニスコートなどの屋外施設
 からなる。

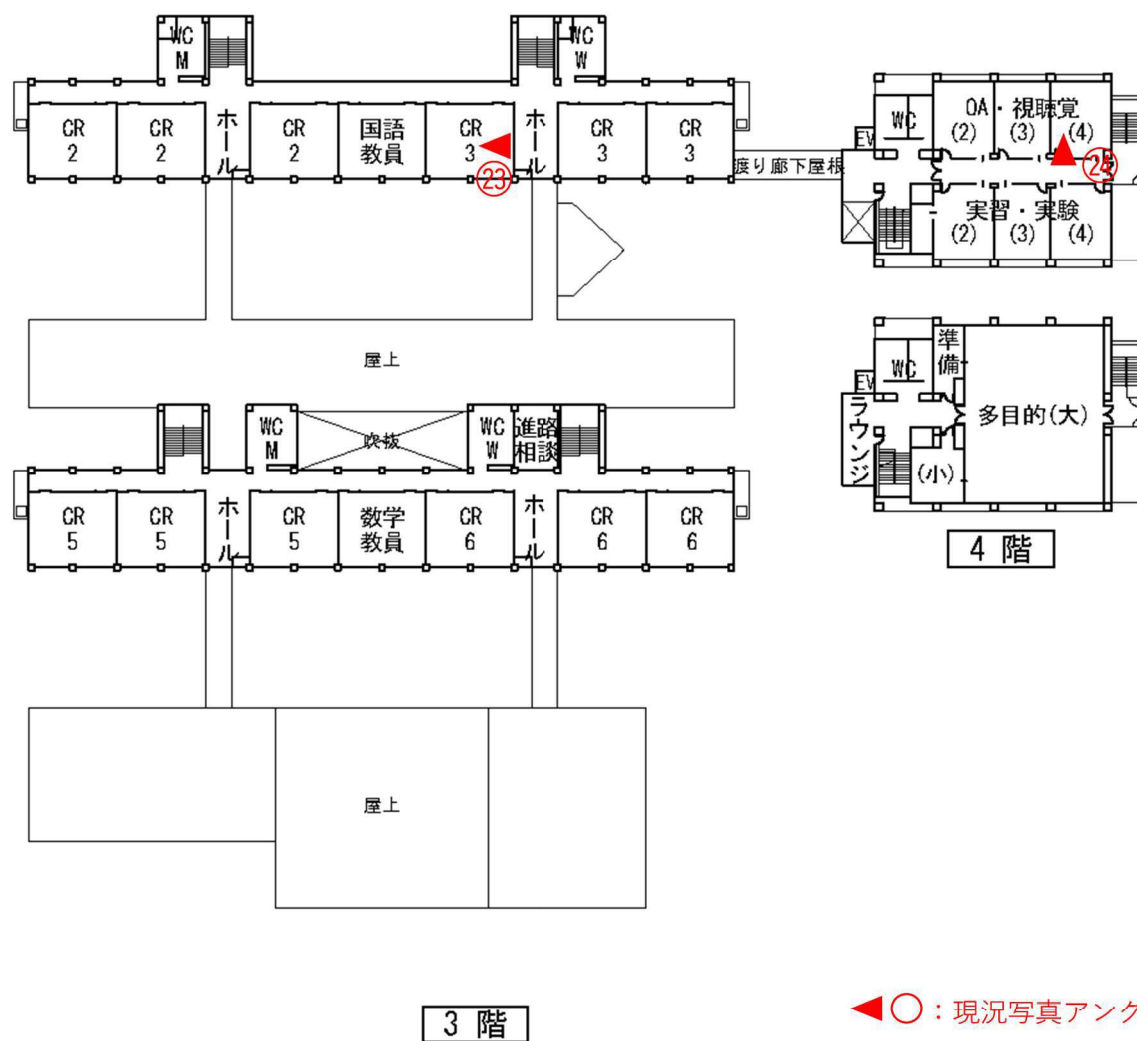
主要用途		学校
敷地位置		東京都中野区南台 1-15-1（東京大学構内）
用途地域の指定		第一種中高層住居専用地域
許容建蔽率		60%
許容容積率		200%
防火地域の指定		防火地域
その他の地域、地域の指定		第 2 種高度地区
敷地面積		35,848 m ²
校舎 棟	建築面積	3,870 m ²
	延べ面積	8,903 m ²
	構造・階数	A 棟・B 棟 S 造 3 階 C 棟 RC 造 2 階
総合 教育 棟	建築面積	490 m ²
	延べ面積	1,806 m ²
	構造・階数	RC 造 4 階
体育 館棟	建築面積	2,780.96 m ²
	延べ面積	3,523.65 m ²
	構造・階数	RC 造 3 階、屋根 S 造

2.1.1. 案内図



2.1.2. 現状配置図・平面図







① 正門



② A・B 棟間昇降口



③ B・C 棟間



④ C 棟間 空地



⑤ 外部 C 棟



⑥ A・B 棟間 1F 昇降口



⑦ A・B 棟間 1F 廊下



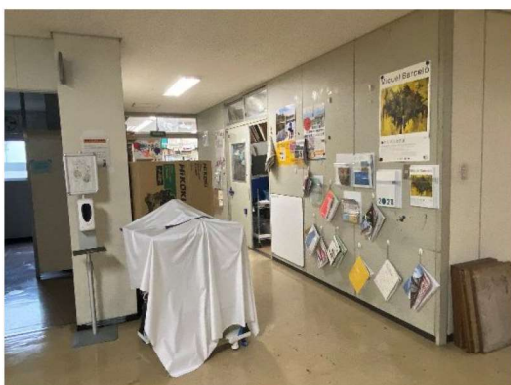
⑧ B 棟 1F 職員室



⑨ B・C棟間 1F 中庭2



⑩ B棟 1F 廊下



⑩ B棟 1F 廊下



⑫ B棟 美術教室



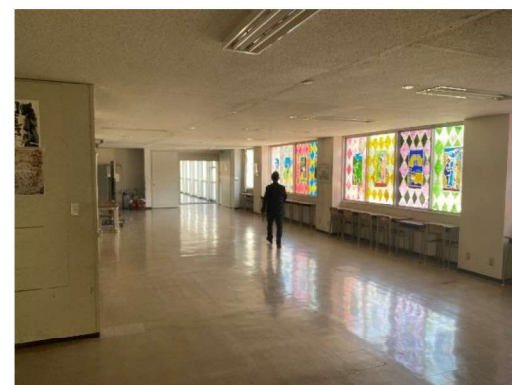
⑬ C棟 1F 図書館



⑭ C棟 1F 図書館



⑮ C棟 1F 技術室



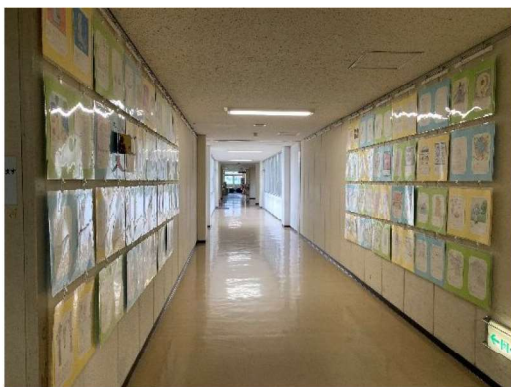
⑯ A棟 2F 廊下 東 A2F



⑰ A棟 2F 廊下



⑱ A・B棟間 中庭1



⑲ B棟 2F 廊下



⑳ B棟 2F DEAL



㉑ B・C棟間 中庭3



㉒ C棟 2F 音楽室



㉓ A棟他 普通教室



㉔ 総合教育棟 3F Fablabo

2.2. 教育方針の概要

2.2.1. 教育方針

- ・ 探究 の 協働 → 市民性 ⇒ 探究的市民
- ・ 総合的学習 ⇔ 教科学習 の両輪
- ・ 卒業研究の特色ある活動

『探究的・協働的な深い学びを通して、豊かな市民性をはぐくむ』



2.2.2. 東大附属校での学びの形の現状

- 「教科学習」と「総合学習」
- 「総合学習」のステップ
 - 【基礎期】 1・2年生 「総合学習入門」
 - 【充実期】 3・4年生 「課題別学習」
 - 【発展期】 5・6年生 「卒業研究」

2.2.3. 総合学習のサイクル

- ① テーマを選ぶための作業 与えられた枠組み（中山道・情報とメディア・他者理解・本郷キャンパス・半径2km…からすべて自由な卒業研究まで様々）の中で、自分(あるいは自分たちのグループ)は、どのようなテーマ設定を行うか？ そのための下調べを行う段階。
- ② 文献学習 選んだテーマに基づき、今何が問題になっているのか、誰が何をどこまで明らかにしているのか、フィールドワークを行う際の視点は何かなど、下調べをする段階。
- ③ フィールドワーク 実況調査・インタビュー・実験・アンケートなど、自分独自の素材を集める段階。
- ④ まとめ 模造紙によるポスター制作・ワードによるレポート制作など、②③の内容を自分(たち)の手で再構成する段階。
- ⑤ プレゼンテーション まとめたものを最後にプレゼンし、フィードバックを受け取る段階。

2.3. 現状の課題

2.3.1. 現状校舎の使い勝手の観点

現状のカリキュラムを展開するうえで、現状の校舎が大きくそれをスポイルしていると感じられている点は下記の3点である。

共同作業の場所がない

- ・机を4つつけたり、掃除のときみたいに机を後ろに追いやって床で作業したり、それでも足りなければ廊下でやったりしている。
- ・作業が教室からあふれ出している風景はある種の活気につながってはいるが、機能的とは言い難い。

プレゼンの場所がない

- ・校内での先輩の発表を見ること、保護者にも見せること、外部の方にプレゼンすることなどが教育には大変有効。・このスペースが少なく、広さも足りない。最低2学年収容できないと先輩の発表は見られない。全校生徒への発表もさせたい、保護者も入れたい、となると全く機会が持てない。
- ・卒業計画優秀者は東大安田講堂で発表したりできるが、これは附属だからできることでたいへんありがたいこと。

テーマ選びの段階での支援

- ・事前学習の方法、図書館の活用、あたりには伸びしろがあると感じる。

2.3.2. 現状校舎の建設時からの課題

現校舎の建設当時、附属校の教育に即した校舎として「特別教室充実型」が議論され実現に至ったが、逆に普通教室の空間的・機能的な充実が成し遂げられなかったことが、反省点として当時の後日談に残されている。現代の教育を取り巻く社会環境の変化を鑑みると、授業の展開、多機能性、生徒のコミュニケーションなどの点から、普通教室の質の向上は今回のリノベーションにあたり最上位の重要度で検討されるべきである。東京大学教育学部附属校の教育研究の歴史とその発展を紡いでいく視点からも、大きな課題として取り扱う。

2.4. 既存校舎の使用状況の把握

今回のリノベーションの基本方針として、増築をまったく行わずに事業を進めるという前提がある。施設の延床面積が変わらない中でカリキュラムに即したリノベーションを行うためには、教室の利用状況や利用率を踏まえて、限られた床面積を有効に再編成する必要がある。そのため、あらかじめ現校舎の利用状況を量的な側面からも把握することとした。

2.4.1. 教室使用率の検証

余剰面積を生み出すための一つの方法として、各教室の稼働率を高めて、教室総数を減らすという方策がある。その時間に使用していない教室を多用途に転用できるかを探るために、カリキュラムをベースに教室の使用率を検証した。

現状のカリキュラムは教科教室型ではないため、各特別教室は1室ずつとなっている。

		東京大学教育学部附属中等教育学校2020年度 時間割（使用教室一覧）																												2020.3.23 教務部						
		月							火							水							木							金						
		1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
総合校舎	1F 101 中級国語																																			
	1F 102 中級英語(1)																																			
	1F 103 中級英語(2)																																			
	1F 104 中級英語(3)																																			
	1F 105 中級英語(4)																																			
	1F 106 中級英語(5)																																			
	1F 107 中級英語(6)																																			
	1F 108 中級英語(7)																																			
	1F 109 中級英語(8)																																			
	1F 110 中級英語(9)																																			
本校舎	1F 201 中級国語																																			
	1F 202 中級英語(1)																																			
	1F 203 中級英語(2)																																			
	1F 204 中級英語(3)																																			
	1F 205 中級英語(4)																																			
	1F 206 中級英語(5)																																			
	1F 207 中級英語(6)																																			
	1F 208 中級英語(7)																																			
	1F 209 中級英語(8)																																			
	1F 210 中級英語(9)																																			

不確定要素

予定表には1～4年生が記載されていないところもある。空いていれば随時使用する。

天候や授業進捗などの不確定な部分を担保するため、複数室を予定している場合もある。

そのため使用率の単純計算は難しいが参考数値としては下記となる。

参考数値

普通のみ：77.1% (444/576)

全体：51.2% (722/1408) (分母には総合1F 中会議、東高記念館は含まない。総合3FOAなどは含む。)

2.4.2. 空いている教室の評価

普通教室と実習室

理科などの授業のうち、実験実習でなく講義の場合は、普通教室のほうが適している場合がある。

複数室の担保

体育は天候の不確実性を担保するため複数個所を予定しているが、晴れたら使わない部屋がある。一般科目でも授業の進捗に合わせて複数個所を担保する場合がある。このようなときは、実際には片方の室は使われない。

不測の事態

ある程度の運営上の「遊び」は不可欠。

→ 教室が兼用できると、1室の面積を拡大できる

2.4.3. カリキュラムへのマッチングとフリー人数の検証

ラーニングコモンズのような個人がいつでも使えるフリースペース的な空間が要望されているが、その適正規模を割り出すための一助として、授業時間割に基づき各時限でフリーとなっている生徒の数を集計した。

その結果、ラーニングコモンズを「居場所」として活用できる人数は少なかったが、現状では図書館が「調べ学習の場」として大いに活用されている。この面からの利用を伸ばしていくことで主体的な学びの機会が多く持てると想定できる。その空間は「フリーな人の居場所」ではなくて「授業を行う場所」となるが、このようなコモンズを想定することが、附属の教育には効果的ではないか。その視点からは、「フリーの人数をラーニングコモンズの規模設定の母数とすることは効果的ではなく、この検証のみにとどまるべきではない」との結論となった。

■1～6 時限でフリーとなっている生徒の人数の分析

東京大学教育学部附属中等教育学校 2020年度 時間割 (クラス別)

2020/3/23

教務部

	月	火	水	木	金																									
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6					
1A	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語					
1B	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語					
1C	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語					
2A	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語					
2B	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語					
2C	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語					
3A	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語					
3B	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語					
3C	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語					
4A	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語					
4B	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語					
4C	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語					
5A	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語					
5B	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語					
5C	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語					
6A	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語					
6B	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語					
6C	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語					
	30	13	0				31	59	39				26	32	0	0			43						22	29	11	42	0	計 357

昼間にフリーとなっている人数

フリーの 6年生 の人数	月			火			水				木			金		
	1・2	3・4	5・6	1・2	3・4	5・6	1・2	3・4	5・6	7	1・2	3・4	5・6	1・2	3・4	5・6
	30	13	0	31	59	39	26	32	0	0	43	22	29	11	42	0

- ・ 昼間はフリーの生徒は少ない。
- ・ フリーになるのは6年生と、5年生の一部（数学を履修しない生徒など）のみ。
- ・ 10～50人程度。
- ・ 放課後は全員フリーになる。
- ・ 各時間帯ともフリーの生徒は10～50人程度。
平均31人。

2.4.4. 図書室の活用状況

図書室は現在も「ラーニングコモンズ」と呼ばれ、調べ学習の拠点として授業で非常に積極的に使用されている。これは本来の意味でのラーニングコモンズというよりはメディアセンター的な使われ方であるが、東大附属の教育の特徴である総合的学習の中核をなす施設・使われ方であると考えられる。この空間の使われ方を検証した。

□図書館での授業が多い

図書室の利用人数の実績

図書室でも年間かなりの時間、授業が行われている。

既存もラーニングコモンズと呼んでいる。

□昼休みの賑わい

100名規模が訪れる。

孤独としてのひとりではなく、カフェ効果としてのひとりになれるところ。

図書館で漫画を読んだりしている。

□移動集密書架は必須

基本的蔵書数、季節の入れ替え、先輩方の卒業研究のアーカイブ保管、など。

構造荷重的に2階には設置できない。

年度	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020		9年間平均	5年間平均	
開館日数	199	195	200	195	195	200	201	159	159	(日)	189	198	日/年
図書館利用者数	12128	14101	21380	23270	19190	21650	22872	20176	10402	(人)	97	109	人/日
授業利用回数	180	162	253	336	351	271	320	315	117	(時限)	1.35	1.54	時限/日

2.4.5. 空間U I の活用状況

- ・英語表現などで使用
- ・個人机⇄大テーブル（白板を置く）での場面転換を行っている。

2.4.6. 教員室への要件

- ・試験期間中など生徒立入禁止が可能なように。
- ・集中したい作業の場合は、オープンな場所では効率が悪い。
- ・国数社英の教科教員室はどうなるのか？

2.4.7. 校舎内での軽運動の状況

- ・プレゼン室と軽運動室は、家具の有無が異なるため、兼用は困難。
- ・軽運動室は、A B棟に設ける場合は1階とすべき。（A B棟は鉄骨造なので下階に振動や騒音の悪影響が出る）

2.4.8. 利用時間の特に多い特別教室

- ・音楽室は使用コマ数が多いため、プレゼン室などとの兼用は困難。
- ・美術室、工芸室、技術室は、使用コマ数が多いうえ、現状のスペースではカリキュラムの人数に対してスペース不足がはなはだしく、機能面で大きな問題となっている。規模拡充の検討が必須である。

2.4.9. 個人ロッカーの現状

- ・ロッカーは現状でも廊下にある。個人ロッカーを廊下側から使用することは問題ない。